

解説ハリストス教信仰 (IV)

木村 真之介

2026.1.3

概要

この文書では、予想される質問と回答について記述します。筆者の知識の及ぶ範囲で予想される質問と回答を例示しました。不正確な部分もあるかと思っています。あくまでも一般信徒の立場からの回答であることを前提にお読みください。



亜使徒日本の大主教聖ニコライ

目次

0.1	予想される質問と回答	2
0.2	付録	26
0.3	もっと知りたい人のために	34
0.4	あとがき	37
0.5	おわりに	40

0.1 予想される質問と回答

0.1.1 信徒の心得はなんですか？

簡単に 3 点ばかり紹介しておきます。

- 参祷
- 奉仕
- 献金

信徒には参祷の義務があります。少なくとも年に一度は参祷して領聖しましょう。

また信徒には奉仕の義務もあります。可能であればお掃除、聖堂奉仕、婦人会、聖歌隊、堂役などのお手伝いをしましょう。

献金は重要です。原則としては収入の十分の一を捧げるのが決まりなので

すが、それは大変なので実際は新聞代程度とされています。

0.1.2 イイスス・ハリストスというのは何語ですか

エルリン語 (ギリシア語)、教会スラブ語、ロシア語などです。

Ἰησοῦς Χριστός と書きます。

ユ^ユダ^ダヤ^ヤ人の言葉、ヘ^ヘブ^ブラ^ライ^イ語では、「ヨシュア・メシア」に相当します。

現代のエルリン語、教会スラブ語やロシア語などでは「イイスス・フリストス」*¹がより近いでしょう。

0.1.3 イイスス・ハリストスとは何者ですか

人となった神です。神となった人ではありません。人類の救いのために十字架に釘打たれ苦しみを受け葬られ三日目に復活し天に昇りました。弟子達に神の国について教えました。完全に神であり、かつ、完全に人です。人であって神ではないとか、神であって人ではないとか、肉体部分は人間で霊においては神であるとか、真の人間ではなく実体のない仮に現れた姿に過ぎないとか、そういう考え方は正しくありません。

0.1.4 イウデヤ人というのはどういう民族なのですか

ユ^ユダ^ダヤ^ヤ人とは、ア^アブ^ブラ^ラハ^ハム^ムを太祖としたイ^イサ^サク^ク、ヤ^ヤコ^コブ^ブの系統の子孫であり、唯一の神を信じる、神に特別に選ばれた、祝福された民族です。

しかし、たびたび神を忘れ、神を裏切り、神を怒らせ、神を嘆き悲しませておりました。神はイウデヤ人達に預言者モ^モイ^イセ^セイを遣わし律法という戒めを与えます。また、神はイウデヤ人のために多くの預言者を立てて神の言葉を伝えさせました。それでもなかなかイウデヤ人は神の戒めをまもることは

*¹ 古典ギリシア語では「クリーストス」に近いのですが、現代では「フリストス」のように発音が変わるようです。

できませんでした。戒めをまもれないということは、罪です。罪の対価は死です。イウデヤ人は永遠の死をおそれました。この死から救うためにダヴィドの子孫、アウラアムの子孫から、ハリストスが来ると預言されていたので、人々はハリストスを待ち望んでいました。

ハリスティアニン等はこのハリストスとはイイスス・ハリストスのことであり、救主であると認め受け入れている人達ですが、それに対してイウデヤ人達はハリストスはまだ来ていない、^{キリスト}ハリストス教の伝えるイイスス・ハリストスは救主ではないと考え受け入れていない人々ともいえます。

0.1.5 最も大切な教え・戒めは何ですか

新約聖書のマトフェイによる聖福音 22 章 36～40 節によれば、次の二つの戒めが最も重要です。

「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」。イエスは言われた、「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」。

マタイによる福音書 22:36-40 口語訳

正教会訳

師よ、律法の中に何の^し誠^{りつばふ}が大なる^{うち}。イイスス之に謂へり、爾^{いづれ}心^{いましめ}を盡し、^{おほい}霊^{もの}を盡し、^{だい}意^にを盡して、主爾^{これ}の神を愛せよ、此れ^い誠^{なんぢ}の^{かみ}第一にして大なる者なり。第二は是に同じき者、即^{あい}爾^この隣^{いましめ}を愛すること己の如くせよ。斯の二の^{おのれ}誠^{ごと}には^こ悉^{ふたつ}くの律法と預言者と^{いましめ}繋^{ことごと}れり。^{りつばふ}^{よげん}^{しゃ}

すなわち次の2点が最も大切な教え・戒めです。これ以上の戒めはありません。^{*2}

1. 主である神を全力で愛すること。
2. 隣人を自分のことのように愛すること。^{*3}

なお、マトフェイとはマタイのことですが、これはギリシア語つまりエルリン語では「th」^{シタ(シータ)}「ϑ」の発音は、教会スラブ語に翻訳される際、教会スラブ語には ϑ の音がなかったため代わりに「f」^{フィ(ファイ)}「Φ」の音が割り当てられたためマトフェイに変化しました。

0.1.6 主日とは？

日曜日、復活日、主の日です。イイスス・ハリストスが復活した曜日です。これを記念して、いわゆるパンを裂く儀式＝聖体礼儀を行います。

0.1.7 聖体礼儀とはなんですか？

特別に聖にされたパンとぶどう酒を飲食する儀式です。このパンとぶどう酒は完全にイイスス・ハリストスの体であり血であると信じます。このパンを裂く儀式では、聖なる捧げ物として、ハリストスを、つまり子なる神を、その父なる神に献ずるという、神ご自身を、和解の捧げものとして、神に献ずるという奇妙なことをしているのです。最初の人類が神から戒められていた果実を食べることによって死ぬものとなったように、私達はハリストスの体を食べることによって罪の赦しと永生を得るのです。この特別のパンを聖

^{*2} 「—これより大事ないましめは、ほかにない」。マルコによる福音書 12:31 口語訳

^{*3} 自分のことのように愛するということについて次の聖書箇所も参考にするとよいであろう。→「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネによる福音書 13:34 口語訳)

体といいます。そしてこのパンを裂く儀式は聖体に関する儀式なので「聖体礼儀」(リトルギヤ)といいます。

0.1.8 聖職者について教えて

聖職者のことを神品しんぴんといいます。神品には、主しゅきょう教、司しさい祭、輔ほさい祭の三つがあります。主教は聖使徒の後継者です。主教は神品機密によって司祭と輔祭をつくることができます。主教が3人集まって神品機密によって新しい主教をつくることができます。

主教の役割は大きく三つあります。それぞれ監督、教導、奉神礼です。

0.1.9 司祭夫人にお手紙を書きたいのだけど敬称は何とすればよいですか？

「マトシカ様」(は名前)で良いそうです。

0.1.10 司祭夫人がいるということは神父は結婚できるので すか？

神品機密を受ける前までに結婚していればそのまま結婚生活を継続することが可能です。つまり結婚したい人は輔祭になる前に結婚しなければなりません。一度神品機密を受けて神品となった者は、妻と死別した後の再婚はできません。再婚する場合は神品職を辞めなければなりません。なお、神品は離婚した場合、婚配機密について誠実でないと判断され、その職を剥奪されます。

0.1.11 聖書とはなんですか？

聖書とは、イイスス・ハリストスについて書かれている書物です。聖書には旧約聖書と新約聖書のふたつがありますが、新約聖書ばかりでなく旧約聖書においてもイイスス・ハリストスについて書かれているのです！ 聖書は文字で書かれた神の^{イコン}聖像です。神の言葉が書かれています。ハリスティアニンは聖書記者達は神の靈感にしたがって聖書を記述したと信じるのです。聖書には旧約聖書と新約聖書があります。旧約聖書にはイイスス・ハリストスが来られる前までのできごと、新約聖書にはイイスス・ハリストスが来られた後のできごとが記述されています。

旧約聖書と新約聖書は互いに対立するものではなく、旧約聖書の預言に対する新約聖書での預言の成就という構成になっており、旧約聖書で預言された救い主であるハリストスは新約聖書で^{ナザレのイエス}イイスス-ナゾレイであると証するという構造になっています。いわば旧約聖書を土台にして新約聖書が成立しているのです。

旧約聖書の神も新約聖書の神も同じ神です。旧約聖書の神は厳しく新約聖書の神は優しいということではありません。人類の成長の段階に合わせて律法と預言、そして福音が示されているのです。聖書は神の遺言のようなものですから私達はその戒めを護ります。

0.1.12 聖書の時代のように神が私達に現れないのは何故

聖書の時代のように神が私達に現れないのは何故かと問われた長老は「信仰が足りないからだ」と答えたそうです。神の声を聞いた人は物質的な耳で聞いたのではなく、心の信仰の耳で神の声を聞いたはずだからです。

0.1.13 教会に来てはいけない人はいいますか

たとえばインフルエンザなど特定の感染症に罹患している人、なんらかの重い罪をおかして教会から一時的に来てはいけないという一種の処分を受けている人、生理中の女性などです。^{*4}生理中の女性に関しては生理痛が重い人などは来なくて良いという配慮の側面もあります。また聖堂内では血を流してはいけないという原則^{*5}もあります。他にも来てはいけない人の分類があると思うのですが、著者は十分に把握していません。

脱線しますが、聖堂内では血を流す罪、殺人は禁止されています。旧約時代には祭壇の角を握る人を復讐などで殺すことが禁じられていましたが、新約時代では聖堂内での殺しは禁止です。

0.1.14 聖書は何語で書かれていますか

オリジナルの、既に失われている、旧約聖書はエウレイ語^{ヘ ブ ラ イ}で書かれていました。これをエルリン語^{ギ リ シ ア}に翻訳したのが七十人訳^{しちじゅうにん}と呼ばれる旧約聖書です。また、新約聖書は最初からエルリン語で書かれていました。新約聖書が書かれた時代の地中海世界の公用語がエルリン語だったからです。新約聖書の書かれた時代に聖書といえば七十人訳聖書のことでしたので、他の翻訳と矛盾する箇所については七十人訳の解釈を採用することになっています。

^{*4} 聖使徒規則、アレクサンドリアの聖ディオニシイの規定書 260 年、第 2 条。
<https://dl.ndl.go.jp/pid/824697/1/152>

^{*5} 聖体礼儀は無血祭ともいわれ、旧約においては家畜の血を必要とした祭儀が、新約ではもはやパンとぶどう酒が捧げられるので血は流さなくなりました。例えば、原則として至聖所内で怪我をして血を流す者は至聖所を出なければいけないのです。

0.1.15 福音とはなんですか

「よき知らせ」のことですが、つまりイエス・ハリストスによって人類に救いがもたらされたというよき知らせのことを福音といいます。福音書とはイエス・ハリストスの言動を弟子達が記録したものです。福音書は聖書の中でも特に重要な部分です。

0.1.16 神は本当にいるのですか

はい。証明はできませんが、筆者は神はいると信じております。あるいは、ある司祭に倣って「信じることに決めたのです」とこたえます。

ある無神論の男

ある無神論の男は、「この世をつくった全能の神ならいるかもしれない」と言いました。しかし、「そのような偉大で大きくて人間にはかりしれない神が、人間のことなんか気にするわけがない」とも言いました。それは無神論というよりは理神論というのだが、それはともかく、「宗教を信じる人たちは、本当の神を知らないくせに、まるで知っているかのように神について話をするのが、赦せない」と言っていました。そして幼児洗礼を非難していました。何も判断できない子供の心に宗教という有害なものを植え付けることが赦せないらしいです。

さて、筆者の反論ですが、神が人格的でない無人格な存在であるならば、なぜ人格的な存在として人間はつくられたのか、つまり神が全知全能であるならば、人格というものを知っており、知っているばかりか人格的な存在でなければ、人間のような人格的な存在をつくることはなかったであろうと考えられます。

そうして、神が人格的な存在であるならば、人間の生活に関わり介入する

神であると考えの方が、自然であろうとさえ思うのです。

また、幼児洗礼をしなくても幼児洗脳をするカルトと一緒にされるのは不本意です。

神を知らないことは罪と考えることができますが、これは知ろうとしない、神を意図的に否定する意図が罪なのだと思います。しかし、なぜ罪なのでしょう。筆者が思うに、自分の「生みの父よりも父」である創造主、これを知ろうとしないというのは不自然だからです。親不孝の罪に似ています。実の親を知らずに育った子供が大人になり、自分の本当の親を知りたいと思うのは自然なことですから、自分のルーツを探ることは根源的な欲求なのでしょう。その意味では、素直に神を認めるべきではないでしょうか。

0.1.17 悪魔は本当にいるのですか

悪魔はいます。悪魔は誘惑者です。私達の心の中で様々な「一見よいアイデア」を生じさせます。その誘惑に従うと神から離れてしまい罪をおかすのです。映画に出てくるような得体の知れない恐ろしいものではなく、もっと身近な存在で、隣近所の付き合い以上に身近な、むしろ、かわいいと思える存在かもしれません。しかし、罪の結果は死です。アリゾナの修道院長のエフREM長老は道路で前を走るトラックの後ろに「車間距離は姑と同じくらい距離をとりましょう」というステッカーを見て説教で「罪とは姑と同じくらいに距離をとりましょう」というジョークを言ったそうです。

0.1.18 悪魔とたたかう方法がありますか

ありません。悪魔とたたかう方法は我慢することだけです。^{*6}このように説明すると、なにか特別な方法があるのではないかと食い下がってくる人も

^{*6} エフェス 6:10-18、ペトル前 5:9 に悪魔への対応が書かれてはいますが、誘惑に対しては我慢が必要です。

おりますが、悪魔は実体のない奴です。パンチやキックは通用しません。私達のところの中に様々な誘惑を生じさせる奴ですから考えるのをやめてしまうのがよいのかも知れません。しかし、誘惑を我慢するための方法はいくつかありそうです。例えば神の母へ救いを求める祈りを捧げるとか、神の助けを求めて十字を描く^かとか、司祭など霊的指導者になるべく早く相談するとか、いくつかの方法が知られています。しかし、最終的には自分自身の自由な意志によって誘惑を我慢することでしか悪魔を退くことはできません。また、なにかの罪をおかしたからといって絶望してはいけません。悪魔の最も喜ぶことは絶望です。絶望とは希望を失った状態です。「夜と霧」で有名なヴィクトール・フランクルはナチスの強制収容所を生き抜いた経験から希望を失ったことで多くの人が死んだと語っています。^{*7}

0.1.19 十字を描く意味はなんですか

ハリストスが十字架にかかったように私も十字架にかかるという意味表示、自分がハリストティアニンであることを動作において告白する表信行為です。神の救いを求めている時や誰かの救いのために祈る時、必要を感じた時に祈りを込めて十字を描き^かます。なお、指の形や十字を描く手順には、異端の教会とは異なる方法で描くことで自分達が異端ではないことを示すという意味もありました。十字の描き方を詳しく知りたい人は司祭等に質問するとよいでしょう。

0.1.20 神の母ではなくイエスの母ではないのですか

イイスス・ハリストスは完全に神であり完全に人である特別なお方です。そのイイスス・ハリストスを生んだ母マリヤは特別の崇敬を受けます。聖人の中の聖人と讃えられます。神の母は最初の人類がおかした罪の対極的な存

^{*7} 「落ち込んだら 正教会司祭の処方箋 171」74。134 ページ。

在です。最初の人類、アダムとエワ^{エヴァ}*⁸の物語は、女エワがその自由な意志によって蛇の誘惑に従うという選択をしたことから人類の陥罪と死が始まるのに対し、マリヤはその自由な意志によって神に応え従順にしたがうという大きな選択をしました。

つまり、天使から、あなたは神の子を生むと告げられた時に、そんなことはとんでもないことですと断らずに従順に「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」*⁹と従ったというできごとがあったからこそ、救い主であるイイスス・ハリストスはこの世に生まれることができたという理解です。このできごと故に聖人の中の聖人、神の母、エルリン語すなわちギリシア語でテオトコスつまり神を生んだ者、生神女(Θεοτόκος/Theotokos/Богородица^{ボゴロージツァ})という称号を得たのです。

0.1.21 聖人とはなんですか

聖人とは神の似姿、肖と像を回復した人々のことです。神と一体となることに成功した人々と言い換えることができそうです。本来ならば誰が天国へ入るか誰が地獄に降るかを議論するのはよくないことです。しかし、聖人達とはもはや天国に属しているとみなされる信仰を貫いた護り通した人々と言えるのかもしれません。最もわかりやすい例は致命者(殉教者)達です。

0.1.22 人名で「聖〇〇」の聖とは何

聖人であることを意味します。

*⁸ 例えば「ワフィロン」は「バビロン」のことだし「モスクワ」は「マスクヴァ」に聞こえるでしょう。また「ワルワラ」という聖人は「バーバラ」のことですから、正教会訳ではカタカナの「ワ」は発音すると「ヴァ」(バ)になることが多いのです。

*⁹ ルカ 1:24-38

0.1.23 洗礼を受けると洗礼名がもらえますか

洗礼を受けるときに聖名すなわち洗礼名がもらえます。聖名は聖人の名前の中から選ばれます。聖名は自分で決めたり代父母に決めてもらうなどします。

0.1.24 代父母

洗礼を受ける際の、信仰上の父と母のことを代父、代母といいます。代父母が受洗者の信仰面の世話をすることになります。それは十字の描き方^かから信仰の基本、作法や教会での生活に必要なことをしっかり教える役割を担っています。しかしながら、残念なことに代父母に十分な知識がない場合もあるかもしれません。この場合、他の人、おそらく担当することになった司祭等に直接教わる必要があるので受洗者が意識して学ばなければいけない部分でしょう。代父母に対して受洗者のことを代子と言います。代子は代父母とは結婚できないなどの制約があります。霊的な親子関係になるので近親相姦となるからです。

0.1.25 洗礼式ではなにをしますか

父と子と聖神[°]の御名によって洗礼は執行されます。そして洗礼者ヨハネがヨルダン川で人々に洗礼を授けたように、受洗者を水の中に沈めて起き上がる動作を三回繰り返します。これは埋葬つまり死と復活の象徴です。なお、現在の日本の教会では成人洗礼の場合、残念なことに本人の特別の希望がない限り、頭に聖水をかけるだけの簡易な形式で執行されます。しかし本来の伝統に則ったやり方は全身を水に沈める浸礼式が正式なものです。ただし浸礼式以外の洗礼方式が無効という意味ではありません。機密（ミステリオン）として有効であると認められています。

0.1.26 懺悔室とかあるんですか

ないです。聖堂内で普通に司祭の立会いのもと神の言葉である福音書とアイコン（聖像）そして十字架を前に罪の告白をして ^{ひざまず} 跪いて罪の赦しを得ます。また懺悔とはいいません。痛悔などといいます。

0.1.27 罪の赦しとは

神の前に罪を告白して罪の赦しを得ます。司祭はその証人です。イイス・ハリストスは神に対する人の罪を赦す権を使徒達に与えました。その使徒達の後継者である主教によって立てられた司祭には人の罪を赦す権があるのです。

0.1.28 何回まで赦されるのですか

何回でも赦されます。聖書には七の七十倍までと書かれていますが、490回で終わりなのではなく、何度でもという意味として解釈します。

「そのとき、ペテロがイエスのもとにきて言った、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか」。イエスは彼に言われた、「わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。」

マタイによる福音書 18:21-22 口語訳

正教会訳

そのとき ^{かれ} ペトル ^つ 彼に ^い 就きて ^{しゅ} 曰へり、^わ 主よ、^{けいていわれ} 我が兄弟 ^{つみ} 我に ^え 罪を得ば、^{いくたびこれ} 幾次之 ^{ゆる} に免すべきか、^{ななたびまで} 七次迄か。^{かれ} イイスス ^い 彼に ^{われなんぢ} 謂ふ、^{ななたびまで} 我 ^い 爾に ^{すなはちしちじふたび} 七次迄 ^{しちばいまで} と言はず、^{しちばいまで} 乃 七十次の七倍迄。

0.1.29 修道士とは

世俗を捨てて生涯結婚をしないという選択をして、神のために祈りと断食の生活に入ることに決めた人のことです。基本的には修道院に入り、長老の指導下に入ります。師弟関係を結び絶対的な服従が要求されます。ドストエフスキーの小説にもありますが、師の言いつけは絶対で、たとえ最高の権威を持つコンスタンティノポリの総主教であっても、師の定めた言いつけを覆すことはできません。しかし、天国に入る一番の近道でもあります。^{*10}

0.1.30 謙遜さを身につけるにはどうしたらよいですか

謙遜さを身につけるにはどうすればよいかと問われ、師は弟子を連れて異教の神殿に行く。師は異教の神像に向けて石を投げる。師は「神像は石を投げられて何か言ったか」と弟子に問うと、弟子は「なにも言いませんでした」と答えた。そこで師は弟子に「お前もそのようにせよ」と教えた。次に師は弟子を墓場へ連れてきた。師は弟子に「墓石に向かって悪口を言え」と命じると弟子は墓石を罵った。次に師は弟子に「墓石に向かってほめてみろ」と命じると弟子は墓石をほめた。師は弟子に「墓石はなにか言ったか」と問うと弟子は「なにも言いませんでした」と答えた。師は弟子に「お前もそのようにせよ」と教えた。ほめられても貶されても、いちいち喜んだり落ち込んだりしない、心の強さを養えということのようです。

また、シリアの聖イサアクによれば、ある長老の教えとして「おかした罪を絶え間なく思い起こすことによって、死が間近いことを予期することによって、みすばらしい身なりをすることによって、常に末席を選ぶことに

^{*10} 結婚するか修道するかは個人の選択であってどちらかが優れているとか劣っているとかは本来ないのですが、しかしそれでもある神品によれば天国への一番の近道は修道士になることだそうです。

よって、最も重要ではなく嫌われる仕事を一切の強制なしに常に率先して実行することによって、継続した沈黙によって、集会を好まないことによって、人に知られず人からの賞賛なしでいたいと願うことによって、自分自身のものは何も一切持たないでいることによって、あらゆる種類の人々との会話を避けることによって、利益を嫌うことによってである。」

「そして、それらの次には、心を他人からの非難や攻撃の上に挙げ、また熱狂的行為の上に挙げることによって、誰に対しても反対したり、誰からも反対されたりしないことによって、否むしろ、自分自身以外の、この世の中のすべての人に関心を持たないことによってである」

「要約すると、追放、貧しさ、孤独の生活、これらすべてのものは謙遜を生み出し、人の心を清める」と。^{*11}

従順さを身につけるにはどうしたらよいか弟子に、従順さを身につけるにはどうしたらよいかと問われ、師は弟子に砂漠の炎天下で重労働をさせた。あまりにも厳しい労働だったので弟子は過労で死んだ。埋葬式を済ませて墓に埋めた。三日目に師が弟子の墓に向かって名前を呼び起きろと命じた。弟子は起き上がって再び労働をはじめた。真似できませんが、従順さは墓まで持っていけということのようです。

0.1.31 聖水はなにに使いますか

主教や司祭等が物品等を成聖するときに、たとえばアイコンや十字架、聖書、家屋、自動車、船舶などに聖水を振りかけて使います。

また、神現祭などで実施される大聖水式で聖水を大量につくりますが、信徒たちはこれを持ち帰り飲んだり料理に使ったり家屋にふきかけるなどすることができます。元は水道水なので腐りにくいですが冷蔵庫に保存しておいても長期間置いた聖水をそのまま飲むのは心配なので煮沸するなどしてくだ

^{*11} 「同情の心」(聖公会出版)42

さい。

0.1.32 教会はどこにありますか

オーソドックスの教会は函館と御茶ノ水の聖堂が有名ですが、ほかにもあります。地域が偏っておりますので教団のウェブサイト (<https://orthodoxjapan.jp/>) などでご確認ください。

0.1.33 イコンの芸術性に感動します

イコン（聖像）というのは芸術ではないと或る先生が申しておりました。たしかに、鑑賞するものではなく、祈りを助ける道具、天国の窓、描かれた聖書などと言われますから芸術とは違うのでしょう。

最初のイコン

聖使徒ルカによって描かれた生神女と幼いイイスス・ハリストスのイコンが最初のイコンという伝承があります。また自印聖像といい、イイススご自身が布を顔に当てて顔の形を写しとったようなイコンがあったという伝承もあります。

イコンの中のサイン

イコンの中の物や文字にはおよそ次のような意味が込められています。

- 手に十字架を持っていれば致命者をあらわしています。
- 手に巻物があるなら旧約の聖人でしょう。
- 手に聖書があれば神品をあらわすでしょう。
- 剣が描かれていれば致命者でしょう。
- 鍵を持っていれば聖使徒ペトルです。
- イコンの中の文字にはその聖人の名前と肩書が記されています。

- 頭の光輪は聖人をあらわしています。
- 同じ人が複数いる場合、時間的に異なる場面を 1 枚のアイコンに描きあらわしていると考えられます。
- 翼がついてれば神使^{しんし}をあらわしています。
- イイスス・ハリストスのアイコンには光輪に「O Ω N」と書かれています。これは「在る者」という意味が込められていて、旧約聖書の出エジプト記 (3:14) でモイセイ^{モーセ}が神に対して神の名前を確認した際の回答「エゴ・エイミ・オ・オン^ホ」(私は在るという者) から、イイススが神であることを示しています。
- イイスス・ハリストスのアイコンには「IC - XC」という文字が書かれます。これはイイスス・ハリストスそれぞれの頭文字を 2 文字ずつとっています。

0.1.34 讃美歌が聞きたいです

讃美歌ではありませんが、YouTube で orthodox chant とか orthodox music などを検索すればオーソドックスの聖歌が色々出てきます。

0.1.35 日本語の聖歌が聴きたいです

各教会で頒布している聖歌の CD をお求めください。また、YouTube で「正教会 聖歌 大阪ハリストス正教会」などを検索すれば大阪ハリストス正教会などで公開されている聖歌や聖歌の解説動画をいくつか視聴することが可能です。

0.1.36 性的少数者の救いについて

昨今、同性愛、性同一性障害などの性的少数者の救いについて関心が高まっています。現在のところ、筆者の知る限りオーソドックスの教会では公式な見解^{*12}は出されておられません。教会は性的少数者の存在を認識してはいるが、どのように対応していくかは模索の段階です。しかしながら、およそ次のように言えるでしょう。

神は天地創造のはじめに男と女をつくられました。そして男女が結ばれることを祝福します。これが神の創造の意図であると理解します。神の意図したことは全てよいもの、よいことです。したがって神の意図しないこと、神のつくっていないものはよいものではありません。すなわち悪です。そういうわけなので男女間以外の結婚が教会において祝福されることはありません。また、「なぜ神は同性愛といった性的特性をつくったのか」という問いに関しては、「神はそれらをつくっていない」というのが回答になります。教会では最初の人アダムによる罪の結果としてこの世に入ったとき、同時に、あらゆる悪がこの世に入ったと理解します。したがって性的少数者の問題は、現在この世が最初の人アダムによる罪の結果としてもたらされた混乱した状況が根源であると理解します。これは当事者に責任があるというよりは、さまざまな人間の不完全さの現れとして理解すべきです。

単純に同性愛は罪ですかと問われれば本来の神の創造の意図と異なるため罪の傾向があるものとして理解します。

同性愛者に救いはないのですかと問われれば本人次第でしょう。

神を信じて洗礼を受けても、同棲を止めることができないとか、同性者との性的関係を止めることができないとか、^{つまり}躰^{（からだ）}の要素はあるかもしれませ

^{*12} 個々に、どのような判断をしたというような声明ならば出されておりますが、性的少数者全般の問題についての声明はないようです。ただし 2016 年に全地総主教庁から、性的指向に関わらず、あらゆる差別に反対する声明ならば出されています。

ん。そして結婚は諦めるしかないでしょう。伝統的な^{キリスト}ハリストス教では、同性婚を神が望んでいないという理解をしているためです。

オーソドックスをはじめとする保守的なハリストス教からは、人権を主張する人々に対して迎合的な回答は決して得られないということにも十分な理解が必要です。

そして、厄介な問題は、同性愛の傾向を持つことを罪として認めたがらないことです。神の創造の意図は人間にははかりしれないものです。教会の伝統的な教えを信じないで、人間の判断で同性愛は罪ではないと信じることは危険とさえ言えるかもしれません。

しかしながら上記の意見に対して「神は左利きをつくらなかった」と言っているのと同じであるという反論も可能です。世の人のほとんどが右利きですから、雑に「神は人間を右利きにデザインした」と説明するのと同じことです。これは結果として左利きは不吉であるという思想につながります。左利きの人にとっては迷惑な話でしょう。しかし過去においては左利きは不吉であるとみなされた時代があったかもしれませんが、現代では左利きが不吉であるといった差別や偏見はないと言ってもいいでしょう。同様に性的少数者についての認知が広まり、聖書学の発展に伴い聖書の時代における性的少数者の認知度や当時の人々がどのように捉えていたのかを知ることによって聖書や信仰にもとづいた差別や偏見をなくすことは可能と思われます。^{*13}

0.1.37 クリスチャンですが日本で生活していると何故こんなに生きづらいと感じるのでしょうか

聖書的にも、世の中に歩調を合わせてはいけませんと戒められていますから、生きづらいのは当然だと思うのです。しかし、アメリカやヨーロッパといったキリスト教国といわれる国であれば、このようなつらさはなかっただ

^{*13} だからといって、やはり正教会において男女以外の組み合わせの婚配は不可能ということに変わりはないでしょうが。

ろうと考えるのは何故かといいますと、我が国においては、宗教を信じるなんて時代遅れで格好が悪いという思想が流行しているからでしょう。それはおそらく、宣教師ニコライの日記によれば、開国後の明治期に日本へやってきたお雇い外国人に無神論者が多かったからです。^{*14}

しかし、それとは別に、ロシア正教会総主教キリールによれば、^{*15}文明の衝突などと呼ばれる社会現象に教会が巻き込まれているからだと言えます。西欧で発展した自由主義思想^{*16}と呼ばれる思想・価値観が現代のグローバル化の流れの中で世界中に^{でんぱ}伝播して、各地域の伝統的宗教的価値観と対立し衝突するという状況があるということです。そのため必ずしも日本だから居心地が悪いというわけではなく、世界的に見ても伝統的宗教的価値観を持っている人にとっては生きづらい環境になってきているようです。例えばヨーロッパの地域によっては降誕祭（クリスマス）はキリスト教の行事であり世の中にはキリスト教以外の人もいるのだから降誕祭期のイベント事はやめようとか、個人の信仰を表現するのは、家庭内やその宗教施設内などに限って許されるべきであるとか、人権は宗教に優先されるとか、そういった思想の伝播が様々な生きづらさを生じさせているということです。これは世界的な動きなので個人の力でどうにかできるものではありません。惑わされないように平安に過ごせるように祈るのが良いでしょう。

0.1.38 自慰行為は罪でしょうか？

はい。けっこう重い罪で、ある解説によれば性的な罪の中では一番重い罪です。理由は、相手を探す努力をしない怠惰であるとかプライドであるとか妄念とか、自己愛の追求であり、利己的で、自己虐待という、あらゆる罪の

^{*14} 「宣教師ニコライの日記」1897年1月15日を見よ。

^{*15} 「自由と責任 調和を求めて 人間の権利と個人の尊厳」モスクワおよび全ルーシの総主教キリル著、モスクワ総主教庁渉外部監修、アンヴィックス社訳。22、61、131ページ。

^{*16} 「自由主義思想」と書いてあるが実際のところ本当に自由主義のことなのかどうかは疑問で、単に翻訳の問題なのか本当に自由主義を意図したものなのかよくわからない。

総体だからです。というわけなので、かなり重い罪であるという認識は持っておいた方がよいでしょう。ただし、やはりここでも複数の意見があって罪というのは程度の問題であり、仕事に支障がでるとか、場合によっては命に関わるような度の過ぎたものが罪であるという考え方もあります。通常の範囲内であれば罪とは言い難いという側面もあるのです。重い罪と認識しつつ、かといって過度に自分を責めることもない、深く考えない方が良い分野でしょう。

0.1.39 墮胎については？

墮胎はいかなる場合も殺人とみなされます。墮胎は良くないことですが、母体の生命を守るという観点から許容されます。防衛戦争において国民の生命を守るために敵を殺すことが許容されるのと同様の解釈がなされます。

0.1.40 齋でミルクの代わりに豆乳を飲んでも良いでしょうか？

二通りの意見があります。まず、ダメという意見です。それはミルクを飲みたい気持ちを満足させるために代わりに豆乳を飲んでいるわけですから、ミルクを飲んでいるのと同じことです。次に飲んでも良いという意見です。それは、齋の規定に従順に従っているのだから問題ないという意見です。規定に書かれていないのに飲食しても良いとか悪いとか自分勝手に決めてしまうのは良くないことです。

0.1.41 正教徒以外の救い

穏健派は正教徒以外の救いについて「あり得る」と考えますが、筆者は穏健派ではないので割とはっきりと「あり得ない」と考えます。筆者は、穏健

派の中でも一部の安直な人達^{*17}のように誰が救われるかどうかは神の領域であるという考え方は無責任と感じており、救いは神から差し伸べられた救いの手を受け取るか受け取らないかの人間の側の自由意志による選択にかかっていると考えます。信じるから救われるのであり信じないものは救われないと明示されているのだから信じないものは永遠に救いを得ないことになります。そして、オーソドックスの教会は自らを唯一の聖なる公の使徒の教会であると定義しており、厳密には他の教派は全て異端であると理解しています。そうでなければ他派からの改宗者の受け入れに「異端者帰正式」^{*18}を行う必要はないはずです。さて、このような原則を踏まえた上で、それでも神の愛は救われないものをも救うのではないかという議論が可能になるのです。しかし、思うに昨今、他宗教・他教派について否定的な見解を述べると鬼の首を取ったかのように反応する人々がいます。そこにあるのはリベラルな自由主義的思想であり、ある種のヒューマニズムであり人権を優先する思想であり、およそ伝統的宗教的価値観とは相容れないものであると筆者の目には映ります。だから筆者はあえて「正教以外に救いはない」と答えます。もっとも、ある先輩信徒の「こんなにも救われない正教徒がたくさんいるのに他教派の人の救いなんて考える必要あるの？」という視点も忘れないようにしたいと思いますが。

0.1.42 日本の正教会に失望しました信者をやめたいです

私も一時期教会に失望して信者をやめようかと思いましたが、何故か踏みとどまって、今に至ります。そもそも期待が大きすぎたのでしょうから、期待外れで失望しているのでしょう。だから、期待するのをやめればよいと思

^{*17} 筆者には、正教徒以外にも救いがあると考える人たちが、ただカリストス・ウェア主教の書かれた本（たとえば正教会入門）などを読んで、深い考えなしに、安直に正教徒以外にも救いはありうると思いたい人がいるように見受けられる。

^{*18} この表現はやや護教的であり、例えば英語では単に 'Reception of Converts' (改宗者受入) というのが普通と聞いています。

います。

しかしながら、2022 年 2 月にロシアによるウクライナ侵攻がはじまってから、ロシア正教会モスクワ総主教キリール聖下がプーチン大統領の戦争を後押し、全面的に支援する姿勢を打ち出しています。侵攻に反対する聖職者が左遷追放される事例も伝わってきている昨今の状況下において、ロシア正教会モスクワ総主教庇護下の聖自治日本正教会は戦争反対の姿勢を十分に打ち出していないという批判もあります。このために幾人かの兄弟姉妹が躓いているのも事実です。同情もします。私の考えでは、それでも私達は自分の教会（日本正教会）に踏みとどまるべきです。ロシア人宣教師聖ニコライによって、日本人の救いの為に建立されたのが日本ハリストス正教会です。

もちろん日本正教会は日本人のためだけに存在するのではなく日本における正教会を代表する立場を自認しているのですから、日本国内における正教徒、求道者に対してサービスを提供する前提があります。現実はかならずしも理想通りにはいきませんが、最初に宣教にあたった聖ニコライの考えは日本にロシア正教会の支部をつくりたかったのではなく、最初から日本の正教会として定着させることを目的としていたことを思い起こすべきでしょう。

ところでロシア正教会に属している^{*19}ならば一般信徒であってもこの戦争に責任があるといって責める人もいます。しかし日本正教会の一般の信徒にそのような責任を追及するのはナンセンスです。日本正教会の信徒達は平和を祈っていないと思っているのでしょうか？また、自分の手の届かないところの問題について責任を感じて自分を責める必要はありません。どうか平和のための祈りを増し加えて日々の生活を送って参りましょう。

^{*19} 外から見れば日本正教会はロシア正教会の一部であるというのも事実です。

0.1.43 良くない神父とどう向き合えば良いですか

^{いんとんしゃ}
隠遁者聖フェオファンは、悪い神父と向き合うのにどうすれば良いかという助言を求められた際に次のような返事の手紙を書きました。それによれば、以前の神父は良かったのに今の神父は良くないと裁いてしまっているわけですから、質問者にも問題があることを指摘しつつ、自分達信徒が良くないから神はこの程度の信徒達の教会にはこれにふさわしい良くない神父を割り当てようとお考えになるのではありませんか、そして解決策として、その良くない神父のためにより一層祈りなさい、献金を頑張りなさい、厳しく齋を実行しなさい、貧しい人への施しを増やしなさい、そしてその通りに実行したら本当にその悪い神父が良い神父に変わったという事例が書かれていたそうです。

0.2 付録

0.2.1 罪の原因となる八つの欲

罪をおかさないようにするには、誘惑を我慢することです。しかし、それだけでは物足りないでしょうから、誘惑に対処し罪を避けるために、ここでは罪の原因となる八つの欲^{*20}について解説します。また、この八つの欲については順番も大切で、前の欲が満たされると次の欲に発展するという性質があります。分類方法はいろいろありましたが、経験的に結局この八つに落ち着きました。

食欲

食欲は全ての欲の中でも基本的な欲です。なんでも口にしていないと気が済まなかったり、新しい味を求めて極端な美食を追求するのもよいことではありません。腹や舌を神とするような状態は罪です。食欲そのものが悪いわけではありません。食欲に限らずどんな欲も罪となるのは正常な範囲を超えている場合です。どの程度なら罪ではないのかについては司祭等、靈的指導者に相談しながら考えるのが良いでしょう。

性欲

食欲が満たされると性欲がわいてきます。しかし、性欲については豊富なアドバイスはありません。聖師父達は性欲については語ることさえ避けるべきであると考えていたようです。

^{*20} この八つの欲についてはフィロカリア (I) カストールの司教に宛てられた、ローマの聖カッシアノスによる「罪惡の八つの思いについて」164 ページ参照。なおフィロカリアの該当箇所には書かれている第六時とは正午のことである。

物欲・金銭欲

食欲や性欲が満たされると今度は、お金でも骨董品でも、昆虫でも瓶の蓋でも、集めることに執着します。集めたものを失うことを恐れます。ひどい場合は集めたものを失うことを恐れるあまり、火事の家から逃げ遅れて死んでしまいます。

怒り

食欲や性欲が満たされ、集めたお金や物を失うと当然の権利を失ったかのように怒りがわき起こるでしょう。怒りは全てを破壊します。また、人を許すことができません。昔の人の罪をいつまでも覚えています。人を許せないでいます。たとえば貧しい人に施しをしません。怒りすぎて人を殺してしまうという殺人の罪をおかすことさえあります。

思い煩い

世の中についてあれこれ考えて、思い煩って普通に考えることができなくなります。なぜ世の中はこんなにも不条理なのか、なぜ不正があるのか、なぜあのときこうしなかったのか、などもはや自分にはどうしようもないことを延々と考えて思い煩います。神に頼るのではなく自分の力でなんとかしようとするから思い煩います。

こころの落ち込み

思い煩いに似ていますが、物事を悲観してしまい極度に落ち込んでしまいます。街の人よりも独りで生活している修道士が陥りやすいと言われています。自分は生まれて来なければよかったとか、自分にはもはや救いはない、などと根拠もなく落ち込んでしまいます。詩編九十一篇にある真昼に荒らす滅びに関係があります。

「また暗やみに歩きまわる疫病をも、真昼に荒す滅びをも恐れることはない。」詩篇 91:6 口語訳

くらやみ ゆ はやりやまひ ま ひる あら わるやまひ おそ
闇冥に行く 行 疫 と正午に暴す瘴 疫 を恐れざらん。——第九十聖詠

砂漠の修道院などでは昼下がりの暑い時間はなににもできないのでただ休むことしかできません。そんなときにこころの落ち込みに襲われるのです。このようなときは悪魔とたたかおうとはせず、じっと耐えて、耐え難い誘惑が過ぎ去るのを待ちます。このようなとき、悪魔とたたかおうとしてはいけません。悪魔とたたかう方法は我慢することだけです。

栄光欲

なんでも人から注目を集めたい。なんでも自慢します。賢さや金持ちであることだけでなく、貧しさや愚かさでさえ自慢します。ある若い修道士が街の有力者に食事に招待されました。その席でワインを勧められたのですが丁度、断食の時期だったのでその修道士は迷います。ここで断ったら自分は断食をしていることを自慢しているようで罪なのではないか、結局この修道士はワインを断りますが、修道院に帰ってから長老にこのことを尋ねました。すると長老は答えました。あなたはまだ若いから断って良かった。もしワインを飲んで酔っ払いの罪に陥ったら良くない。しかし私のような長老になると栄光欲がこわいから、飲んだ方がいいかもしれません。

傲慢

あらゆる誘惑の中で最も厄介な欲が傲慢です。ある修道院にとっても模範的な修道士がいました。その人は他の修道士から虐められてもいつもニコニコ微笑んでよく祈っていました。ある時、長老^{*21}が不思議に思いその修道士

^{*21} おそらく聖師父ドロフェイにまつわる逸話と思われます。

に質問します。なぜあなたはそんなに虐められても微笑んでられるのか、彼は答えます。あの人達は犬と一緒にです。何を言われても何をされても何とも思いません。これを聞いた長老は驚きます。人を人とも思わない、これほどの傲慢は、人には治せません。神にしか治せません。

0.2.2 世界の正教会

世界の正教会を紹介します。^{*22}

まず、独立正教会の一覧です。独立正教会は互いに承認しあうことでその地位が確定します。必ずしも全ての教会に承認されているとは限りませんが、カノンの教会である限りひとつの聖なる公なる使徒の教会として認められます。

四つの古代からの総主教庁

- コンスタンティノポリス総主教庁
- アレクサンドリア総主教庁
- アンティオキア総主教庁
- イエルサリム総主教庁

独立正教会 (総主教)

- ブルガリア正教会
- ジョージア正教会
- セルビア正教会
- ロシア正教会
- ルーマニア正教会

独立正教会 (大主教)

- キプロス正教会
- ギリシア正教会

^{*22} https://en.m.wikipedia.org/wiki/Eastern_Orthodox_Church_organization(2025年12月時点)

- アルバニア正教会

独立正教会 (府主教)

- ポーランド正教会
- チェコスロバキア正教会^{*23}
- アメリカ正教会 (モスクワ及びブルガリア、ポーランド、チェコスロバキア等の承認)

次に、自治教会です。自治教会は完全に独立しているわけではなく母教会となる独立教会の傘下で一定の自治が認められている教会です。特に、自治教会では洗礼機密に必要な特別な膏^{あぶら}、聖膏^{せいこう}を独自につくることができませんので、母教会となる独立教会から聖膏を分けてもらう必要があります。聖膏は独立教会の総主教によって聖大木曜日に成聖されます。

自治教会

- 全地総主教庁
 - アトス山
 - エストニア使徒教会
 - ロシア正教会西ヨーロッパ教区
 - フィンランド正教会
- アンティオキア総主教庁
 - アンティオキアオーソドックスクリスチャン北アメリカ教区
- イエルサリム総主教庁
 - シナイ山
- モスクワ総主教庁

^{*23} チェコとスロバキアがひとつの国であった頃から存在しているが、教会は分割されず両国を統括するひとつの独立正教会となっている。

- － ベラルーシ
 - － ラトビア
 - － モルドバ
 - － 日本 (モスクワ及びアメリカ正教会の承認)
 - － 中国 (モスクワによって承認されている)
- セルビア総主教庁
 - － オフリド正教会
- ルーマニア総主教庁
 - － ルーマニア正教会アメリカ教区

準自治教会

- 全地総主教庁
 - － クリト (クレタ) 教会
- モスクワ総主教庁
 - － エストニア正教会 (モスクワ総主教庁)
 - － 在外ロシア正教会

自治教会でないが限定的な自治

- 全地総主教
 - － イタリア正教会
 - － 韓国正教会
 - － フィリピン正教会
 - － 北アメリカ (カルパソ-ロシア) 正教会

ウクライナを巡る正教会の状況について

ウクライナを巡る状況は複雑で、モスクワ総主教から承認を受けたウクライナ正教会 (UOC) とコンスタンティノポリス総主教から承認を受けたウクライナ正教会 (OCU) が併存しているし、これ以外にも正教会関係組織が存在していて非常にわかりにくい。モスクワ総主教庁系のウクライナ正教会は長く自治教会として存在したがロシアとウクライナの対立が深まり 2018 年に設立された新生ウクライナ正教会が 2019 年にコンスタンティノポリス総主教庁から独立の承認を得て独立。モスクワ総主教庁はこれを認めずロシア正教会とコンスタンティノポリス総主教庁の関係が断絶することとなった。その後、いくつかの独立教会が新生ウクライナ正教会を承認したが、新生ウクライナ正教会 (OCU) もモスクワ総主教庁系のウクライナ正教会 (UOC) もその独立にはいまだに論争のある状況で当分解決しそうにありません。正確な状況を反映してリストアップするのが難しい状況です。

その他

その他にも様々な正教会が存在しているが筆者には把握しきれていない。

0.3 もっと知りたい人のために

参考になる文献を紹介します。

0.3.1 参考文献

- ゲオルギイ松島神父によるウェブサイト「来てみてごらん」
<https://www.orthodox-jp.com/george/>
- 「正教会入門」ティモシー・ウェア著 松島神父監修、新教出版社、2017年8月1日 第1版第1刷
- 「聖書のメッセージ」ジョージ・F・クロンク著、司祭ゲオルギイ松島雄一訳、発行 2005年4月 日本ハリストス正教会西日本主教区 教務部
- 「ギリシャ正教」高橋保行著、講談社学術文庫 1980年
- 「宗教の世界史 10 キリスト教の歴史 3 東方正教会・東方諸教会 (宗教の世界史)」廣岡 正久著、山川出版社、2013年7月25日 第1版第1刷発行
- 「ニコライの日記」(上、中、下)、中村健之介編訳、岩波文庫、2011年
- 「ニコライ堂の人びと」長縄光男著、現代企画室、2000年
- 「宣教師ニコライと明治日本」中村健之介著、岩波新書、1996年
- 「フィロカリア 第一巻」2007年12月10日発行、新世社
- カリストス・ウェア主教の論集Ⅰ「私たちはどのように救われるか 大斎の意味 正教徒は聖書をどう読むべきか」カリストス・ウェア主教著、司祭ダヴィド水口優明、司祭ゲオルギイ松島雄一訳、西日本主教区

その他、教会事務所等で頒布されているトラクト類。

- 「正教入門シリーズ 1 正教要理」

- 「正教入門シリーズ 2 奉神礼」
- 「正教入門シリーズ 3 聖書概論 教会史」
- 「正教会の手引」
- 「正教会用語集」

なお「正教会の手引」は簡易な入門書であります。2026 年 1 月現在、教団のウェブサイトから PDF でのダウンロードができない状況なので直接教会事務所などで頒布してもらう必要があります。簡易な手引書なので大変便利ですが、これさえ読めば完璧というわけではありません。他の書籍等で補う必要があります。

その他

- 「自由と責任 調和を求めて 人間の権利と個人の尊厳」 モスクワおよび全ルーシの総主教キリル著、モスクワ総主教庁渉外部監修、アンヴィックス社訳。およそ自由主義思想^{*24}と伝統的な宗教的価値観との文明の衝突について書かれている。この本はロシア正教会のプロパガンダ的なものですが、プロパガンダすら情報として得難い現状を考えると貴重な書物と言えるでしょう。
- 各教会で実施されている伝道会で司祭等から直接教えて頂いた話や先輩信徒からの口伝によるもの多数。出典を書くのは困難。

0.3.2 その他の情報源

教会に足を運んでハリストティアニン達とお友達になりましょう。きっと色々おしえてくれるはずです。

^{*24} これは本当に自由主義のことなのか疑問ではある。

インターネットの活用について

たとえば教会に通いたいと考えて最寄りの教会を調べるとか、キリスト教に興味があって教義や歴史について調べたいとか、そのような要望がある場合、インターネット検索にはコツがいります。規模の大きな教会のオフィシャルサイトを優先しましょう。たとえばローマ・カトリック教会について知りたいならば「カトリック中央協議会」のサイトをたどるのが良いでしょう。また日本基督教団なら「日本基督教団公式サイト」を参照しましょう。とはいえ、日本基督教団は玉石混合の教団なので、そこに属している教会のウェブサイトがあったとしても内部事情に通じている人でなければ良し悪しの判別は難しいでしょう。オーソドックスならば「日本正教会」のオフィシャルサイトや orthodox-jp.com など、日本ハリストス正教会の神品等によって運営されているサイトを参照すべきでしょう。

基本は口伝

基本は口伝です。オフラインのフェイストゥフェイスの関係から、ハリストスの福音が伝えられてきたことを考えると、文献による宣教には限界があります。やはり教会に通い、司祭等から直接教わるのが一番良いやり方です。

0.4 あとがき

この文書が皆様の信仰生活の役に立つものとなるようお祈り致します。

私は 2008 年、29 歳のときに東京の本会、神田駿河台の地にある東京復活大聖堂教会、通称ニコライ堂にて受洗しました。それから十数年ばかり信仰生活を送ってまいりました。この文書は今までに読んできた何冊かの本と、伝道会で教わったこと、府主教座下や司祭等のトラクトなどを元に作成しました。

なぜ洗礼を受けたのかと尋ねられることがあります。記憶によれば教会を探し始めたのは 2006 年の終わり頃です。記憶が確かではありませんが、当時働いていた会社を精神を病んで辞めることになったとき、ある上司が悪意はないのに私を追い詰めるので「これは悪魔の仕業に違いない、悪魔はいるに違いない、悪魔がいるならば神もいるに違いない」とか「これらの不幸は私が成長するのをやめてしまったから守護天使が守ってくれなくなったためだ」などといった考えに至ったのがきっかけでした。^{*25}

落ち着いて考えてみると、守護天使なる語句が頭の中に登場したり、悪魔はいる、悪魔とたたかう方法を知らなければならない、などという発想は、およそ宗教に属することであると気がつき、そして祖母がクリスチャンでしたから子供心にキリスト教に馴染みがあったので、教会を探し始めたのです。

なぜオーソドックスの教会を選んだかといえ、教理的にしっかりしているし、当時の無知な自分には多く枝分かれをしたキリスト教の教派から自分に合ったものを選び取るなんて不可能なことに思われたからです。

というのも最初に導かれた教会が根本主義（聖書原理主義）でしたから

^{*25} 後で、ある神品にこのことを話すと、それは実に日本的というか、アジア的な信仰の持ち方で、典型的な崇り神信仰だと教えてもらいました。私は洋画好きだったので、キリスト教に関心を持ったのは欧米の文化の影響かと思っていたので意外でした。

びっくりしたのです。進化論を拒否、十分の一献金、洗礼は浸礼式に限る！しかし、実に信仰深く、良い人たちでした。半年ばかり通いましたが、全くあのような信仰こそ見習うべきであるとさえ感じたのです。とはいえ、根本主義的信仰の持ち方には、素人目にも何か違うと感じたので他を調べようと思い、色々な教会を巡ることにしたのです。

しかし、「数打ちゃ当たる」作戦には無理がありました。はたして、「キリスト教ってこんな宗教だっけ？」と疑問が生じました。小学生の頃、プロテスタントのクリスチャンだった祖母の葬式で初めてキリスト教に触れた自身の記憶からは、なにか違うという感想しかありませんでした。

そこで、枝葉ではなくメインラインを追わなければと考えました。そうです、キリスト教のメインラインといえばローマ・カトリック教会に違いありません。そこで、例の如くインターネットを調べ、例の如く Wikipedia の該当ページを読み、ようやく東方正教会なるものが存在することを知ったのです。しかし、その時は東方で土着し変異したメインラインからは外れた異端的な教会であろうと思い、通り過ぎるところを、唐突に「いや待て、偏見はよくない」という考えが浮かび、よく調べると^{オーソドックス}正教会の方がメインラインであることが分かりました。これは恩寵による導きでしょう。とりあえずローマ・カトリック教会の勉強会に通いつつ、他のプロテスタントの教会をいくつか訪ねつつ、御茶ノ水のニコライ堂に通ってみることにしたのです。

最初、聖堂へどうやって行くのか迷いましたが、丸いドームはかつて勤めた会社の帰り道に聖橋から毎日眺めていたものでした。運命的な出会いを感じました。

初めてニコライ堂の奉神礼に参拝したときの感想は「ちゃんと宗教やっている」というものでした。他の教会ではもはやキリストについて語り合う集まりのようなものであると感じていたため、新鮮な感じがして良かったです。金ピカなイコノスタスとお経のような^{しょうけい}誦経を聞いて、雰囲気は仏教に似ていると思いましたが、おそらく宗教とは本来このようなものなのでしょう。

私はなかなか信じる決心ができませんでしたが、私が教会に通いはじめたのをきっかけに母がプロテスタントの教会に通い始めたことを知りました。私は母は洗礼には至らないだろうと思っていたので、ふと母が洗礼を受けたなら私も洗礼を受けましょう、それくらい信じるのが難しいですと神に語りかけました。そうしたら母が洗礼を受けると言い出して実際にプロテスタントの教会で洗礼を受けてしまいました。

そんなこともあり、1年半ほどニコライ堂に通い、なかなか復活が信じられなかったのですが、ある司祭に相談したところ「信じることができるようにお祈りして洗礼を受けてください」と促され、洗礼を受ける決意を固めました。

それから十数年が経ちました。家族で^{オーソドックス}正^{クリスチャン}教のハリスティアニンは自分だけです。私以外の家族は皆およそ宗教には感心がありません。プロテスタントで洗礼を受けたはずの母も今では教会に通うのをやめて無宗教状態に戻りしています。ただ、私が信者であるから、わずかに関心を持ってくれているようで、まれに聖堂に足を運んでくれます。しかし、通ってみたり、ましてや信仰を持つところまではいきません。教会のよさを伝えることができないのは、私が十分に変容し光り輝いていないからです。これはとても残念なことです。

しかし、希望を棄ててはいけないので、最後に、この文書が私自身と家族の救いのために役立つことを切に願い祈ります。



チョトキ (コンボスキイニ)

0.5 おわりに

0.5.1 編集履歴

解説ハリストス教信仰 (IV)

v1.0 . . . 2023.08.26

v2.0 . . . 2024.06.24

v3.0 . . . 2025.12.29

v3.2 . . . 2026.1.3

この文書の最新版は下記 URL を参照してください。

<https://orthodox.jp/eks/>

0.5.2 製作・著作

エフレム木村真之介 (E.Kimura.S)

連絡先

X(Twitter): @shin314159

e-mail: shin314@gmail.com